

森六ケミカルズ・インドネシア

森六ケミカルズ・インドネシア(服部将也社長)は、豊富な実績と知見を持つ自動車・二輪向け材料に加え、食品用包材や農業など非自動車分野でのビジネス育成に軸足を広げ、収益基盤の強化を進める。化学産業が発展途上にあるインドネシアでは依然として国産化されていない化学品が多く、顧客ニーズを先取りしたソリューションを提供する。

同国市場では主力の自動車分野に落ち込みが見られる。自動二輪は堅調ながらも、森六インドネシアの主要取引先である日系大手二輪・四輪メーカーの不調が影響し、収益面で逆風が吹いている。そのため今期は非自動車分野へのシフトを鮮明にしており、包材分野では日系食品メーカーへの食品用包材の販売とフィルムメーカーへのフィルム添加剤の採用実績が増えている。今後、食品包装材では高機能化が、添加剤はより幅広い領域での需要が期待される。



服部将也 社長

食品用包材・農業分野を育成

服部将也社長は、2025年に社長に就任「インドネシアの規制、規則の変化が激しいのでしっかりと動向を追いたい。既存事業に力を入れる幹の部分をつくすのか、新規事業で枝葉を広げるのか、判断していきたい」と話している。

農業分野では、肥料や農薬を補完する「バイオスティミュラント(農作物用サプリメント)」を新たな柱に据える。植物の生理機能を活性化させ、ストレス耐性向上、収穫量増加や糖度向上といった効果が期待され、すでにインドネシア国内でトライアルを開始。品質が価値に直結する農産物をターゲットとし、付加価値で勝負できる市場の開拓を目指す。

リサイクル樹脂事業も多角化を進めている。これまでは日用品用途が中心だったが、自動車用部品での活用にも踏み込んだ。現地で調達可能なポリエチレン、ポリプロピレン、PET再生材を活用し、コンパウンド技術を取り入れた自動車向け材料の開発を開始。グローバルネットワークを駆使し、中国やインド、欧州などから商材を供給しつつ、国内外の需要をタイムリーに捉えていく。

リサイクル樹脂事業も多角化を進めている。これまでは日用品用途が中心だったが、自動車用部品での活用にも踏み込んだ。現地で調達可能なポリエチレン、ポリプロピレン、PET再生材を活用し、コンパウンド技術を取り入れた自動車向け材料の開発を開始。グローバルネットワークを駆使し、中国やインド、欧州などから商材を供給しつつ、国内外の需要をタイムリーに捉えていく。